

平成三十年度 戸倉小学校卒業式 式辞

暖かな春の日ざしが差し込むこの良き日に、多くのご来賓の皆様のご臨席、並びに保護者の皆様のご列席をいただき、ここに平成三十年度卒業証書授与式が出来ますことを心より厚く御礼申し上げます。

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

みなさんがこの戸倉小学校を立派に旅立っていくことの喜びとともに、みなさんの揃った姿を見るのは今日が最後になってしまうというさびしさを感じています。

みなさんは、口で言うより自らが動く。苦勞なことでも当たり前のようにできる。その姿を通して下級生のお手本になろうとしていた六年生でした。四十一名という少ない人数の学年でありながら、先輩たちが築き上げてきた児童会活動や全校行事をこれまでとなんら変わりなくやり遂げました。数が少なければ、一人ひとりが動かなければなりません。一人ひとりが動くためには、友だちとの協力も必要です。「信頼」「尊重」「あこがれ」を合言葉にした六年生は、まとまりのある、協力する集団に成長しました。そして、「戸倉小学校の顔」として、立派にその役割を果たしました。

児童会では『笑顔あふれる学校目指し協力し活動しよう』を目標にして、「あいさつ応援団」「全校作品」「なかよしの活動」「元気はつらつ大作戦」等様々な活動に、常に中心となり学年を越えて全校で取り組みました。一年前、当時五年生だったみなさんは、六年生を送る会

で、「私たちに任せてください」と力強く宣言しました。言葉どおり、任せる事のできる頼りになる六年生になりました。

運動会では、組体操が思い出されます。ある六年生が「動かずビシッとポーズを決めることができた」と日記に書いたように、動と静がはっきりとした見ている者に感動を与える演技でした。

音楽会では、心に響く合奏と歌声が、聞く人の心にしっかり届きました。千曲市合同音楽会では、最初の演奏が戸倉小学校でした。きれいなハーモニーがホール全体に響き渡るすばらしい合唱でした。講師の西澤先生から、「最初の歌がその音楽会の雰囲気を決める。それにふさわしい合唱でした」という言葉を頂くほど心に残る演奏ができたのは、全員の心が一つになっていたからでした。

松組も竹組も三年生までは一緒の一つの学級でした。それもあり、高学年になって松組・竹組と別れても、まるで家族のようにまとまりがありました。

今年松組は、自分たちの住む戸倉をきれいにしようと、大西線のゴミ拾いをしたり、花のプランターを置いたりして学校や地域をきれいに明るくする活動に取り組みました。活動を通して、友だちと協力する大切さを学び、ふるさと戸倉を愛する気持ちを育てました。

竹組は、誕生日会やクリスマス会などの行事を大切にしていました。メッセージカードを送ったり、自分たちで企画を話し合ったりすることで、互いの良さを知り、人間関係を広げていきました。六年生では、

思い出のつまった校舎をジオラマとして制作する活動を通して協力することの素晴らしさを学びました。

たかはし けいこ さんという方が「人のために何かをしてあげて、その人が喜ぶ顔を見て自分も幸せな気持ちになる。こういう幸せが一番大切だ」と言っています。この「あげるしあわせ」と同じ事をやなせたかしさんも言っていました。「人生の楽しみの中で、最高のものは人を喜ばせること」だと。「人を喜ばせること」「人の役に立つこと」のできる人は、人を幸せにします。自分も幸せになります。皆さんにはぜひ幸せな人生を歩んで欲しいと思います。そして、一度の人生、あなたの道を、あなたらしく精一杯生きて欲しいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。小さな体に大きなランドセル・・・入学した日のことが走馬燈のようによみがえっている事と思います。その子どもたちも今日ここに見事に成長して、卒業の日を迎えました。この六年間、いつも温かな気持ちで学校に協力していただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

また、保護者と共に常に子どもたちを見守り育ててくださった、本日ここにおいでのご来賓の皆様、そして地域の皆様方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

卒業生の未来が希望に満ちた輝かしいものになることをお祈りして式辞といたします。

平成三十一年三月十五日

千曲市立戸倉小学校長 町田秀敏